

北ア・乗鞍岳・真谷

T野

2023年7月29日～30日

メンバー： T野・K林・T中m・T山



2年位前だろうか？たまたまネットで見つけた乗鞍岳南面に位置する真谷、「マダニ」とは読まない。どうやら「シンタニ」と読むのが正しいらしい。乗鞍岳に源を発し、阿多野郷川→飛騨川→木曾川と流れ伊勢湾に注ぐ溪である。

僕にとって乗鞍岳はスキーではホントおなじみの山。でも、沢登りが楽しめるということ自体が実に意外であった。しかも、数少ない記録を読むと、だれもが大絶賛！！どうやら大滝、小滝が連続して、源頭はお花畑で藪漕ぎ無しで稜線に突き上げる秀溪らしい。まだ、あまりメジャーでないのも好印象で、機会があったらメジャーになる前に「ぜひ行きたい！！」と思っていたのだ。

今回、嬉しいことに天気予報はバッチリ晴れマーク、街はうだるような暑さで、標高の高い沢（1550m～2750m）は、変な虫もいないし、涼しく登れるので今がまさに旬である。さらに、銀座の登攀隊長、カンちゃんがエントリーしてくれたのもう鬼に金棒！！これは行くしかない

いでしょう！！そんなことで、予定していたアブ地獄が予想される御神楽の沢は9月に延期して、迷わず「真谷」を計画した。

■写真上 入溪後、早々に好ましい溪相になり、ナメと小滝が連続する。

■写真中 出た！！2段40mの末広がりの大滝！！傾斜は緩いが高度感抜群！！

■写真下 2段40mをリードするカンちゃん！！

ところで、記録を読むと、この溪は100%日帰りで実施されている。そして、ほとんどのパーティーは10時



間を超える弾丸登山で何とかこなしているという事実がある。一方、我々は、東京からほとんど寝ずに5時間以上のドライブをこなし、寝不足状態で登らねばならず、さらに、ほとんどのメンバーが還暦を過ぎたメンバーで構成されているという事実がある。地図を見る限り、狭く急峻な溪なので快適なテンバは望むべくもないが、「まあ、4人くらいどこかに泊まれる場所があるだろう!!」という全く根拠のない希望的観測を信じて、今回は沢中泊で計画した。さあ



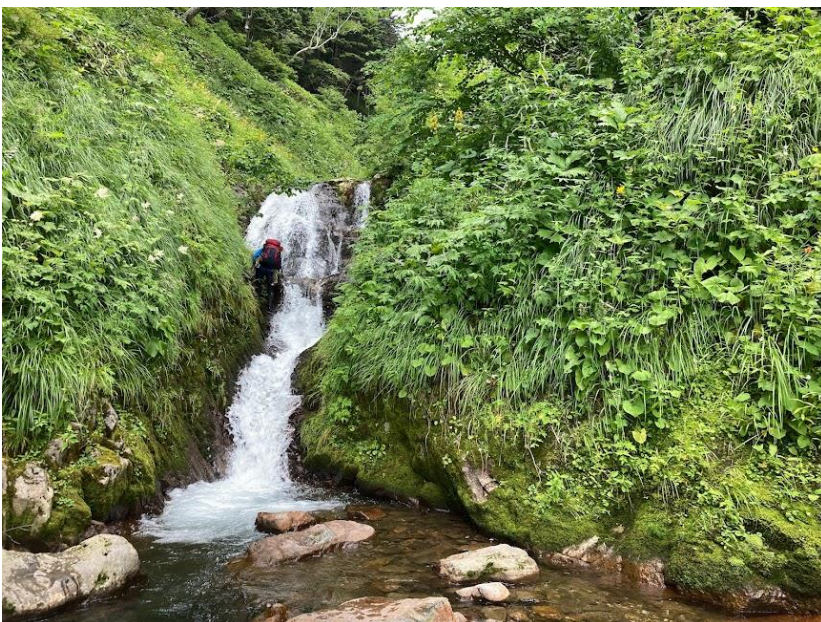
一、この決断、凶と出るか吉と出るか・・・では報告です。

前日夜 21:00 に新宿を出発、辰野PAで時間調整して0:00 過ぎに深夜割引をゲットして伊那ICで高速を降り、権兵衛トンネルを超えて「道の駅 日義木曾駒高原」で軽く入山祝い後仮眠。

- 写真上 続いて現れる2段30m滝、側壁にはシナノキンバイが咲き乱れる。
- 写真中 2段30m滝の上段をリードするカンちゃん!!
- 写真下 その後も小滝が連続して楽しい!!

7/29

6時過ぎに出発、阿多野郷村の「アイミックス自然村南乗鞍キャンプ場」の少し先にある東谷出合を目指す。



思ったより早く7:30頃に到着。準備して8:00に出発。15分で真谷を渡る橋、ここから入渓しているパーティーも多いのだが、左岸に真谷林道（草ボウボウだが道は存在している。）が延びていて、記録によると、入渓点から最初の1時間くらいは何もなく単調という表記もあったので、時間節約も考えてこの林道を辿ると終点で容易に溪に下りることができた。ここで沢装備を整えて8:58に入渓。す



ぐにナメや小滝が断続的に現れるようになり期待が持てる。いくつかの小滝やナメ滝を快適に登って行くと、入渓から1時間ほどで早速大物参上！！40mはある2段の末広がりの大滝である。溪が右に曲がる場所に鎮座しているのでぎりぎりまで近づかなければ見えないが、溪の雰囲気からそろそろ現れるだろうと思っていた矢先の御対面である。登攀隊長のカンちゃんの出番である。ロープを付け、右壁からスルスルと登って行く。カンちゃんがスルスル登ったからといって安心してはいけない。後続してみると、それなりに気を使わなければいけない壁で、我々の実力ではロープ必携だった。下段を登ったところでピッチを切って、上段は見た目10mくらいに見えるが傾斜は下段より急だ。ここは確か右壁を直登したような気がする。さらに続いてこれもまた2段30mクラスの大滝。



■写真上 小滝も1歩が難しくお助けを出すことも！！

■写真中 途中、美しいナメ滝にて。

■写真下 楽しく登れる小滝地帯！！



この滝の下段は左壁の不安定な草付きを登る。岩とはまた違う難しさがある。ここもカンちゃんトップで登り後続する。上からロープがあるので安心だが、ここも僕がリードで登るとなると相当なプレッシャーを感じるだろう。その場合、おそらく、空身で登ったと思う。そして上段の滝、思ったより立っているが、左壁をカンちゃんは見事なハイステップで登って行く。この登り方は体の硬い僕には絶対無理なので、違うラインを登ったがまあまあ旨くいった。人それぞれ得意な登り方が違うものである。ここは10mくらいに見えたが実は落ち口までしっかり20mあり、セカンドは中間で登るが、ロープの末端に補助ロープやら長いシュリングなどを繋げて何とかロープの末端を下で確保し、上からロープを投げず



に済ませ、時間の短縮を図った。この辺り、滝はどれも大きく脅し系だが、側面の草付きにはシナノキンバイが咲き乱れ、癒し系の風景を醸し出している。その後、10mクラスの滝がこれでもかという感じで続いていてその対応に忙しいが楽しいところだ。この連瀑帯の突破に約2時間を要した。

やがて、滝の規模は5m前後と小さくなり、淵と小滝が連続する楽しい区間となる。この辺りはたまに1歩が悪くお助けを出す場所もあったが、概ねロープ不要で各々好きなところを登って行く。途中、左岸に1カ所テンバ適地があり、この溪の中では一番の優良物件だが、ここで泊まってしまうと翌日が辛いし時間も早すぎるのでパス。この小滝連続の区間も通過に約2時間を要した。

■写真上 再び始まる巨瀑地帯、最初はトイ状20mから。

■写真中 なおも天空に巨瀑が続く。傾斜は緩いので直登もできそう！！

■写真下 狭いながらも楽しい我が家、10m岩小屋のある滝の下で整地してタープを張りました。

14:00 近くになると、天候が悪化、雨がぱらつき落雷もあり不穏な雰囲気になる。さらに再び大滝の連瀑帯が出現。そろそろ良いところがあれば泊まりたいのだが、許してくれそうもない地形である。連瀑帯の最初はトイ状20mの斜瀑！！かなり又メッテいそうなの



でここは右から巻き気味に登る。するとさらに上には20mクラスの滝が連続している。素晴らしい光景だが、いつ本格的な雷雨になるかわからないので先を急ぐため、この連瀑帯は右岸草付きを巻き気味に登って突破する。ここは、時間があれば、我々の実力だとロープが必要になるが直登も充分可能に見える。

■写真上 2日目、御嶽山が雲海に浮かぶ。

■写真中 昨日と変わって穏やかな美溪を行く！！

■写真下 間違いやすい2330mの二俣、ここは左が本流だ。



さて、標高も2200m付近で、地形図的にはこの辺りが等高線も緩くテンバを求めるとしたらと目星をつけていた場所である。滝の左に岩小屋のある10m滝の下に整地すれば何とかかなりそうなテンバを見つける。この滝の上に期待できそうな二俣もあるので、一応、そこを見に行ってみたが、検討の結果、10m滝下の右



岸にテンバを決めて土木工事すること1時間。幸運にも雷雨は上がり空も明るくなってきて一安心。時間をかけて何とか快適に眠れそうなテンバに仕上げた。ただ、残念ながら薪が乏しく、それもビショビショな薪しかないので焚火は諦める。寝床が完成した段階で、今日のハードな行動で疲れ果ててスイッチが切れた、というのが実情である。それでも、定番の松戸の朝採れの枝豆、北海道の珍味乾きもの他、つまみは豊富で滝の下で



冷やしたビールが旨い。焚火がないのは残念だが、上から下まで着替えれば超快適！！気温も涼しく住めば都である。いつしかビールから日本酒へと進み意識が遠のいていった。

7/30

急ごしらえのテンパで滝の音がうるさい割にはよく眠れた。3時に目覚ましをかけたが、3時2分までアラームに気づかず爆睡、2分間もアラームが鳴り続けていたようである。朝食は昨日炊いた米に鮭茶漬の素、それにお湯をかけただけの簡素な食事だが量はあるのでお腹いっぱい4:45 出発。10m滝を左岸から巻けばすぐに二俣、ここは本流の左俣に進む。後方には雲海の上に朝焼けの御嶽山が意外な近さで鎮座して厳かな雰囲気醸し出している。

溪は昨日の厳しさはなく、傾斜の緩いナメ滝とナメの連続で側面の草付きには高山植物が咲き誇って気分よく歩く。しかし、2330m付近の二俣は要注意だ。地図にある枝沢で水線のある左俣には水が流れておらず、見過ごしてしまい、逆に、そのすぐ上にある地図上に水線のない右から入る小さなガレ沢にはしっかり水が流れていて、我々はここを二俣と勘違いし、右俣に入ってしまった。すぐに沢が枯れて、間違いに気づいたので多少の藪漕ぎで本流に戻れ、大きなロスにはならなかったが、水量もほぼ1:1で間違いやすい二俣である。

■写真上 ラスポス 10m枯滝、カンちゃん以外は左岸巻き。

■写真中 アルプスの雄大な景色が広がった！！

■写真下 さあ、あと一息。



二俣から約30分でラスボスの垂直の10m枯滝が現れる。登ればここがこの溪の核心部だ。カンちゃんが果敢にアタックするが、支点も取れずかなり悪そう。度胸一発で何とか登るが後続には巻きを指示されたので、我々は左岸を巻く。小さく巻くのがコツで大きく巻くとハイマツの密叢で苦勞すると思う。我々はルーフアイが上手いき最小限の労力で巻くことができた。ここからは標高差約300m、体力勝負である。お花畑を見ながらのんびり登れば約2



時間で8:50に稜線の登山道に詰め上げる。天気は快晴！！アルプスらしい素晴らしい景色を堪能する。涼しくて快適！！下界のうだるような暑さが嘘のようだ。同じ乗鞍岳でも山頂付近と違いここは静寂を保ち、まさに雲上の楽園！！いつまでものんびりしたいところだが下りのコースタイムも約4時間と長い。膝に爆弾を抱える還暦過ぎのメンバーはこういう場所では無理はできないのでのんびりと降りる。



■写真上 最後の詰めも藪漕ぎはない！！

■写真中 稜線は静寂な楽園！！

■写真下 稜線直下はお花畑！！

最初のうちは森林限界の上で、踏みあとが低いハイマツに隠れて、要所に積まれたケルンを目印に下降していく。途中、親子のライチョウが姿を現し、思わぬ山からの贈り物に顔もほころぶ。写真を何枚も取って、



その愛くるしい動きを目で追う。そのあとはただただ修行、樹林帯に入っても概ね道はわかるが、数か所藪に覆われてわかりにくい場所があり、日帰りでこの溪を遡行した場合、下山が夜になるとヘッドライトがあっても、道を見つけながら下降するのは難しいだろう。我々は時間にも余裕があったので、落ち着いて道を探ることができたので不安を感じることはなく下降できた。

ただ・・・疲れた。

ほぼコースタイム通り約4時間の修行の末、下山！！お疲れ様でした！！

真谷は、記録にある通り大小滝の連続で、辺りの景色もさすがアルプス！！といった感じの素晴らしい溪でもっと多くの人が遡行しても良い溪だと思いました。グレードは2級上くらいで、滝のピッチグレードはルートの間違えなければ最高でも3級上～4級くらいだと思います。靴はラバーだとたまにヌメル場所もありましたが、特に問題はありませんでした。フェルトのメンバーも特に問題なかったようです。



また、我々は1泊で抜けましたが、テンバは我々が泊まった2200m付近と、それより下流の下部連瀑帯と上部連瀑帯の間に、左岸に1カ所適地がありました。元気な人は日帰りで遡行していますが、そうじゃない人は我々同様、1泊で計画するのも時間に余裕が持てて良いと思います。（ただし、荷物は重くなりますが・・・）

最後に、登攀隊長のカンちゃんはじめメンバーのmさん、Tさん、いつもながら有難うございました！！行きたかった沢をまた一つ登ることができました！！

■写真上 登ってきた真谷を稜線から俯瞰する。バックは中アの山々。

■写真下 稜線の御褒美、雷鳥の親子にも出会えた！！

■コースタイム

7/29

東谷出合林道車止め（8:00）～入溪（9:00）～（9:50）2段40m大滝（10:30）～（10:35）2段30m滝（11:50）～（13:55）トイ状20m斜瀑～（15:45）2200m付近10m滝下のテンバ

7/30

テンバ（4:45）～（5:20）2330m間違いやすい二俣～（6:08）垂直の10m枯滝（6:50）～（8:50）登山道（9:10）～（13:10）東谷出合林道車止め

